

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例

特別養護老人ホーム

みさよはうす富久



【施設名】

社会福祉法人シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム みさよはうす富久

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の流れ（9つのステップ）
- 取組内容
- 導入による成果
- 導入に関わった職員の声
- 取組中に発生した課題と乗り越えるための工夫
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

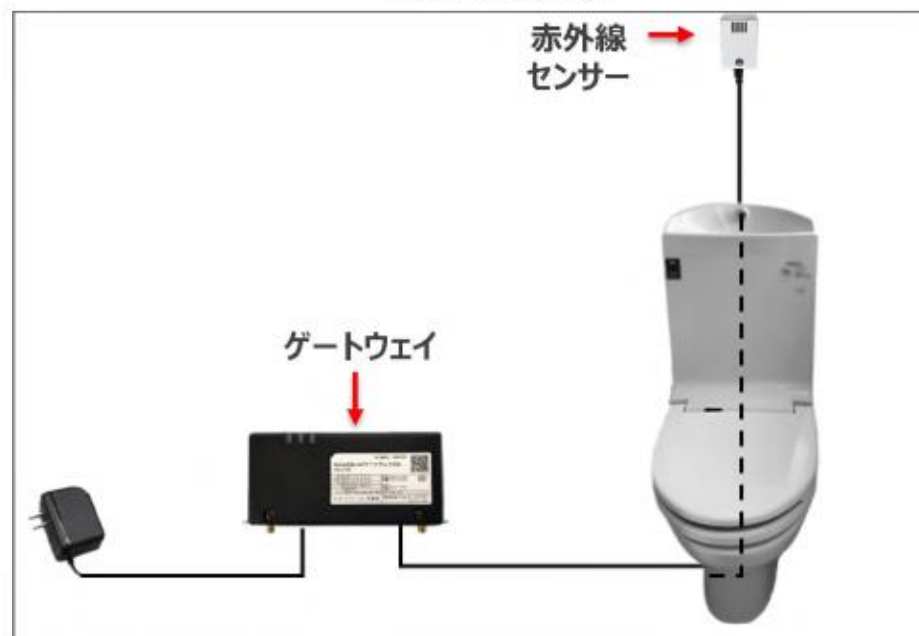
運営法人	社会福祉法人シルヴァーウィング
施設名	特別養護老人ホーム みさよはうす富久
所在地	新宿区富久町35番7号
定員	53名（特養48名、短期入所5名）
平均介護度	4.4
職員数	35名
特徴	・令和元年7月 1 日開設 ・看護師が24時間常駐 ・全室個室。各居室に洗面所、トイレ、バルコニー設置 ・様々な介護ロボットや I C T を積極的に導入、活用



導入した次世代介護機器

メーカー名	三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
機器名	トイレ見守りサービス kizkia-Knight (キヅキア-ナイト)
台数	10台

【機器構成】



【居室トイレに設置】



導入の流れ

次世代介護機器導入の9つのステップ^o

準備期

1. 情報収集
2. 導入取組に対する組織全体での合意形成
3. 実施体制の整備

導入前期

4. 課題の見える化
5. 導入計画づくり
6. 試行的導入の準備

導入後期

7. 試行的な導入
8. 小さな成功事例の共有
9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

取組期間：
およそ5カ月

取組実施者：
5名
(職種：介護、看護、事務)

準備期の取組内容

取組期間：12月15日～1月10日

準備期

1. 情報収集
2. 導入取組に対する組織全体での合意形成
3. 実施体制の整備

1. 情報収集

- ・施設内で過去の事象を精査し、導入したい機器やツールを各職種から意見を収集。
- ・法人内の他施設で、導入実績ある機器や導入検討した機器の情報を入手し、検討。

2. 導入取組に対する組織全体での合意形成

- ・法人本部との連携による情報共有
- ・施設内で、施設長・介護／看護リーダー等による職員会議で方向性の確認・決定

3. 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	最終決定、本部調整
2	事務主幹	全体取りまとめ、メーカー調整
3	介護リーダ＊	現場取りまとめ
4	看護師＊	健康管理
5	事務職員＊	I T担当、機器評価

＊印・・・異動等による途中交代

導入前期の取組内容

取組期間：1月10日～1月25日

導入
前期

4. 課題の見える化
5. 導入計画づくり
6. 試行的導入の準備

4. 課題の見える化

■因果関係図づくりの実施概要

実施日時： 令和4年1月24日

実施場所： 地域交流スペース

参加職員：

■因果関係図づくりの実施結果



■課題の見える化

原因	結果	悪影響
・居室（特にトイレ）内の利用者の状況を把握するのが難しい。	・介助が必要な利用者がトイレ内で転倒や体調不良になる場合がある。	・気付くまでに時間がかかり、重大な事故につながる可能性がある。

導入前期の取組内容

取組期間：1月5日～1月31日

導入
前期

- 4. 課題の見える化
- 5. 導入計画づくり
- 6. 試行的導入の準備

5. 導入計画づくり

■課題解決に向けた道筋

- ・利用者のトイレの中の状況がわからないことに対し、プライバシーに配慮した赤外線センサーによる見守りシステムを導入することにより、シルエット映像でトイレ内の状況把握が出来るようになり、万一転倒や具合が悪くなる等の事故が発生しても迅速に検知・対応できるようになる。

■導入する次世代介護機器

kizkia-Knight（三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社）

■成果を計る指標

- ・訪室（見回り回数）の削減による職員の負担軽減
 - 一定時間以上トイレ内に滞在していると「当該フロアのスマホ」にアラートを発出
- ・不測の事態発生時の対応時間短縮
 - トイレ内での異常な態勢（倒れ込み等）を検知すると「当該フロアのスマホ」にアラートを発出

導入前期の取組内容

取組期間：1月12日～2月15日

導入
前期

- 4. 課題の見える化
- 5. 導入計画づくり
- 6. 試行的導入の準備

6. 試行的導入の準備

- 誰が

- 介護・事務職員を中心とするプロジェクトメンバー

- いつ

- 1月中旬から

いつまでに

2月中旬まで

- 何を

- 試行する条件に見合う利用者の選定→設置する居室の決定
- 同意書の作成→設置する利用者家族から同意書を得る
- 現場職員に試行実施について周知徹底

- どのような状態（目標）にするために

- 訪室（見回り回数）の削減による職員の負担軽減
- 不測の事態発生時の対応時間短縮



現場職員が日常業務の中で新しい仕組みを活用できるよう、本格導入に向けた評価・検証を行う

- どうする

- システムの動作状況／検知状況の確認・評価
- スマホへのアラート状態／画像の鮮明さの確認・評価
- 利用者の行動（機器を気にしないか、コード類を引っ張ったりしないか、等）の想定・検討

導入後期の取組内容

取組期間：2月15日～3月15日

導入
後期

- 7. 試行的な導入
- 8. 小さな成功事例の共有
- 9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

7. 試行的導入

- ・ センサー1台について設置する条件に見合う利用者（自立でトイレ使用、転倒リスクあり、等）を選定、該当利用者の居室トイレに設置（2階207号室）を決定。
その際、センサーの設置方法（壁面を傷つけない、容易に取れない、等）を本格的導入を視野に入れてメーカーと協議し設置。
- ・ 介護職員に設置を周知徹底し、システムとアプリの使い方を説明。
→ 運用説明を2階フロア職員に限定。
- ・ 試行の中で、システムの動作状況や画像の見え方・アラートが的確かを評価。
- ・ 同意書を作成し、選定した利用者の家族に事情を説明。
→ ご家族からは「そういうことなら喜んで」と同意書を取得。

■「効果的に活用できなかった原因」

- ・ この時点では、システムやアプリの簡単な説明書が無く、現場職員へ口頭説明になってしまったため、現場職員間での引継ぎが上手くいかなかった。
- ・ プロジェクトメンバーの異動・変更により、役割分担が出来なかった。

※結果的に、試行的導入期間の機器性能の評価が十分では無かった。

導入後期の取組内容

取組期間：3月1日～3月15日

導入
後期

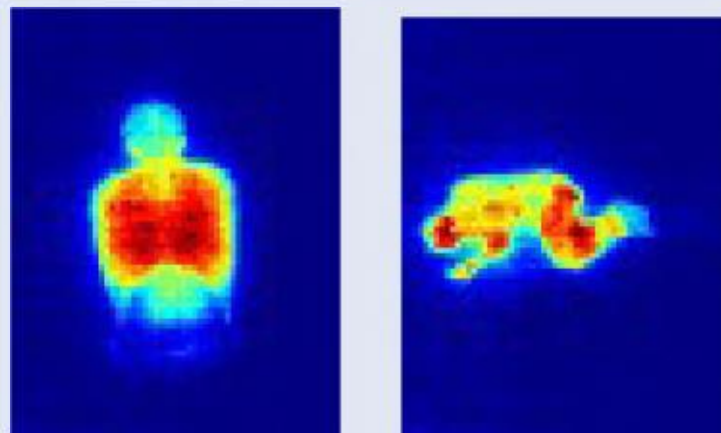
- 7. 試行的な導入
- 8. 小さな成功事例の共有
- 9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

8. 小さな成功事例の共有

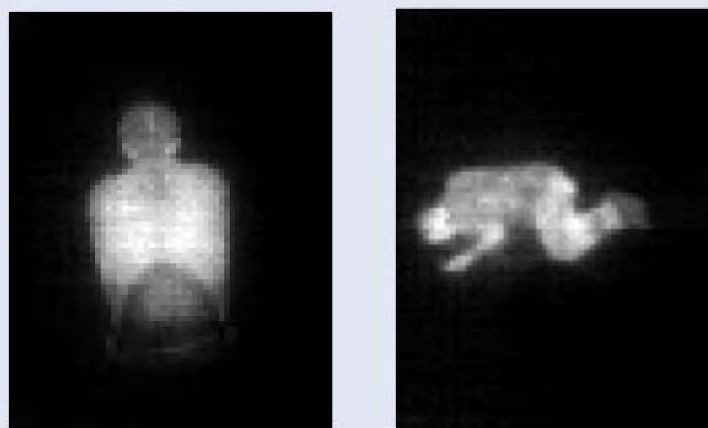
■ 共有した成功事例

スマホ画面の画像を「カラー」か「モノクロ」か選択する必要があったが、現場職員を巻き込んで、実際の環境下での両方の画像を確認した結果、「モノクロ」画像に決定した。サンプル画像では違いをあまり感じなかったが、当施設トイレに設置した画像ではシンプルな「モノクロ」画面が見やすいとの意見が占めた。実際の画像を確認したことにより職員間でも、このシステムがより身近なものになった。

【カラー画像】



【モノクロ画像】



導入後期の取組内容

取組期間：3月15日～3月25日

導入後期

7. 試行的な導入
8. 小さな成功事例の共有
9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

9. 本格的な導入に向けた手順書・マニュアルづくり

■作成したマニュアル

(表)



(裏)



※ 介護スタッフが手軽に利用できるよう「簡易マニュアル」を作成
→ A 4 両面1枚に、[簡単な動作説明] [通知一覧表] 等の
必要事項を網羅し、スタッフ1枚ずつ全員に配布した

導入による成果

- 当施設の全53室中、主に「自分でトイレに行ける方」「介助が必要でも一人でトイレに行きたがる方」の10室に設置。

今までトイレの中だけは訪室・目視による状況確認であったが、赤外線センサーを使った付加価値のある見守りが可能となった。

【目的】トイレ内での長時間滞在や倒れ込み等のアラートにより、
万一の場合の事故の予防や早期発見対応

【成果】既設の居室見守りカメラ（ベッド中心の画像）とトイレ見守りを併せると、利用者が居室のどこで何をしているかが瞬時に判り、介護職員の訪室確認による負担や精神的不安が減少した。

導入に関わった職員の声

- 試行的導入の際の機器評価にもう少し時間をかける必要があった。
実際の複数の部屋に設置してから、誤検知とかが発生しているので
機器評価やメーカーとの調整が足りなかったのではないかな。
- 途中からプロジェクトメンバーになったので、当初はあまり経緯が
分からず苦勞した。
- 倒れ込み検知はまだまだ誤認識もあり改善の必要もあるが、トイレ
内での長時間滞在も通知されるので、安心である。

取組中に発生した課題と乗り越えるための工夫

発生した課題

設置台数は10台。
将来的に設置する居室を変更したい
場合どう対処するか？（居室は53室）

工夫

53室のトイレは同一寸法・同一構造。
センサー設置位置と設置金具の角度が
肝要。

- ① aを部屋数分用意
- ② aの設置位置（上下左右）を採寸
- ③ bとcをマジックテープで固定
- ④ 新しい部屋の壁にaを取付。b+Cをaに取付。

現在の状況

現時点では変更予定は無いが、上記
方法で簡単に居室移動が可能。
入居者の交代やA D Lの変化に迅速に
対応することができる。

a.設置用マジック
テープ



b.設置金具



c.赤外線センサー



取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- コロナ禍の影響もあり、準備段階でのメーカーとの協議がオンライン会議中心となり、設置居室での検証等の細かい詰めが不足していたため、本格導入してから「倒れ込み検知」や「使用中表示」の誤作動が発生し、しきい値の再調整等が続く。
新しい機器の導入の際には、事前準備・協議の中で仕様や長所/短所の把握・確認の大切さを学んだ。
- 一方で、「設置センサーの居室変更対応」について議論していたところ、東京都福祉保健財団主催のセミナーにおけるイリーゼ東久留米様の事例発表の中で『見守りシステムが天井据付なので移動が出来ずデメリット』とあり、同じシステムでは無いが、移動可能な設置方法・設置用具をメーカー側に強く要望し、対応可能となった。
他施設様の導入状況が大変参考になった。

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

当施設では、法人本部主導ではありますが、様々な次世代介護機器を導入しております。

但し、その運用・活用の点についてはまだ十分とは言えません。今後も、各職種が相互に協力して新しい介護機器やシステムの活用に取り組んでいきたいと考えています。

この様な次世代介護機器の導入には、経営の目指す方向を示したトップダウンとプロジェクトメンバーを中心として可能な限り多数の人達を巻き込んだボトムアップの両方が必要と思われます。

また、新しい機器を導入し定着するまでは、場合によって長い時間が必要となるものもあります。開発メーカーとの付き合いも導入したら終わりではなく、時間を掛けてより使いやすいものに仕上げていく連携が必要です。